

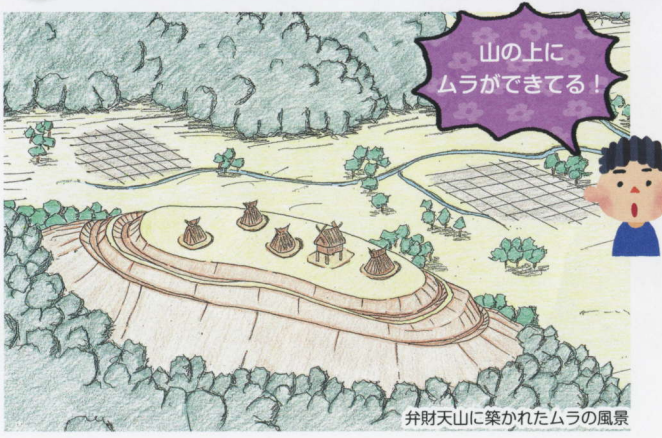
# こんぼくやま・いそべ・べざいてんこふんぐん ができるまで

## 1 へいわ 平和でおだやかな暮らし ~米作りと日本人~

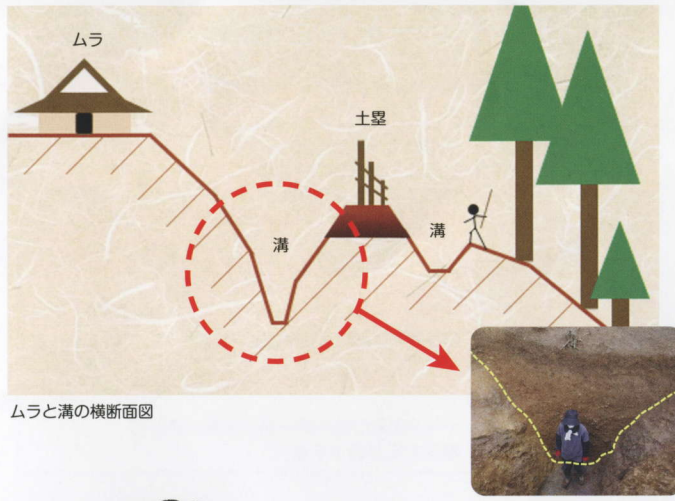


いま ねん まえ たいりく にほんれいとう こめづく つた  
 今から2500年ほど前、大陸から日本列島に米作りが伝わりました。  
 またなかやま かたかみ あき いま おな いなほ か と やよいじん  
 北中山や片上でも秋には今と同じように稲穂を刈り取る弥生人の  
 すがた み だれ し にほん のうそん げんふうけい  
 姿が見られたことでしょう。誰もが知っている日本の農村の原風景  
 でき じだい てつ どう きんぞく つた  
 が出来つつあった時代でした。このころ鉄や銅などの金属も伝わり、  
 じょうもんじだい つづ しゅりょうさいしゅう しゃがい おおき か  
 縄文時代から続いてきた狩猟採集のおだやかな社会が大きく変わろうとしていました。

## 2 たたか 戦い、がやってきた ~高地性環壕集落の出現~

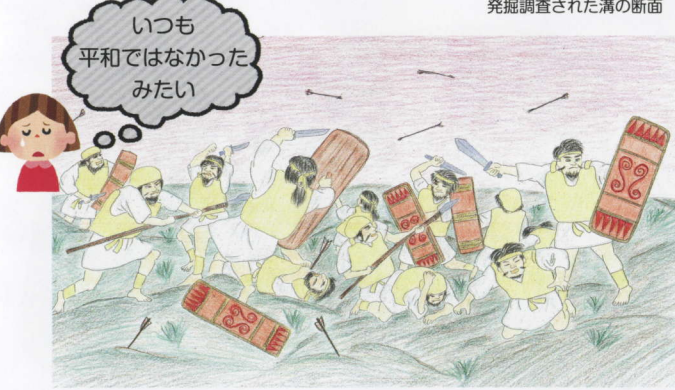


弁財天山に築かれたムラの風景



ムラと溝の横断面図

発掘調査された溝の断面

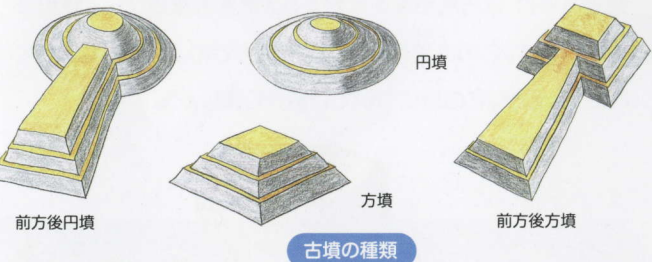


弥生時代の戦いの風景

ねん まえ み は べざいてんやま ちょうじょう やよいじん  
 1900年ほど前になると見晴らしのよい弁財天山の頂上に弥生人  
 たちは二重の溝をめぐらしたムラを造り始めます。長さ140m、幅40m  
 ひろ はんい みぞ ふか いちど お あ  
 の広い範囲をめぐる溝はとても深く一度落ちるとはい上がれませ  
 だいでほくこうじ ひつよう しろ はいけい  
 ん。大土木工事を必要とする「城」のようなムラがきずかれた背景の  
 ひとつには、ムラどうしでお米を作るための水の取り合いがあったとみ  
 はな あ がいけつ むすか しめ こう  
 られ、話し合いでの解決が難しくなっていたことを示しています。考  
 こがく こうせいいかんこうしゅうらく よ ほっけん  
 古学ではこのようなムラを高地性環壕集落と呼び、この発見によっ  
 やよいじだい ふくいけん おお あらそ お  
 て弥生時代の福井県では大きな争いが起こっていたことがうかがえ  
 ます。

## 3 たんじょう オウ、の誕生 ~巨大な古墳が物語るもの~

ねん まえ べざいてんやま つか い  
 1800年ほど前になると弁財天山のムラは使われなくなり、入れか  
 らるように古墳が造られるようになります。最初は5~15mほど  
 ちい さなものばかりでしたが、やがて20mをこす大きなものがあ  
 らわれます。最終的に古墳群全体で70基ほどの古墳が造られまし  
 さいしゅうてき こふんぐん ぜんたい き こふん つく  
 た。このことから、山は「住む場所」から「亡くなった人を葬る場  
 やま す ばしょ な ひと ほろむ ば  
 所」へ変化したことがわかります。



古墳の種類

よんせいき こんぼくやま さんちょう おお せんぼうこうえんふん  
 4世紀になると今北山の山頂に大きな前方後円墳がつくられまし  
 なが ちょうじょう そこ ふしぎ かたち つぼ なら  
 た。長さは75mもあり、頂上には底のあいた不思議な形の壺が並  
 おな じき こふん ほくりく  
 べられていたようです。同じ時期につくられた古墳としては北陸  
 ちほう さいだいきゅう たんなちいき おお ちから も  
 地方で最大級のものともみられ、この丹南地域に大きな力を持った  
 じんぶつ ころ にほんれいとう せいけん  
 人物がいたことがわかります。この頃の日本列島はヤマト政権が  
 どういつ せいけん さんか かうち だいおう はか  
 統一をすすめており、政権に参加した各地の“オウ”は大王の墓と  
 おな せんぼうこうえんふん つく たんなちいき せい  
 同じ前方後円墳を造りました。このことから丹南地域もヤマト政  
 けん く こ  
 権に組み込まれたことがわかります。



築造中の今北山古墳想像図